３０．１０．２１
杉 並 区 広 報 課

都市農地を守る「アグリフェスタ」開催

10 月 21 日、杉並区役所では、都市農業の振興と農地保全への理解を深めるためのイベント「アグリフェスタ」を開催しました。この催しは、杉並区と世田谷区、そして両区を拠点とする JA 東京中央が共催したもので、平成 24 年から行っているもので、トークセッションには、両区の区長をはじめ農業者も参加し、都市で農業を続けるための工夫や課題を明らかにしました。また、会場では地元農家が丹精込めて育てた新鮮野菜も販売や農作業車両の展示も行われ、多くの来場者で賑わいました。

杉並区内の農地は、昭和 60 年には 100ha だったものが、平成 30 年には半分の 42.88ha に、農家戸数は半分を大きく下回る 430 戸が 137 戸になっています。これは、都市化による近隣問題や農業者の高齢化、後継者不足、相続税などの大きな税負担の影響によるもので、隣接する世田谷区でも、同様の理由から都市農地の減少が顕在化しています。

しかし、都市農地は新鮮で安全な農産物の生産に加え、首都直下地震の際には、有効な避難場所となります。また、農地とともに農業用井戸は災害時に生活用水として大きな力となることが期待されています。さらに、貴重なみどりとして、まちに潤いを与えるなど景観としての価値もあります。

そこで、杉並区では都市農地を後世に残す支援策として、意欲的に農業経営に取り組む農業者に、トラクターなどの農機具購入や圃場（ほじょう）整備費用の補助を行っています。また、農業体験農園の開園・運営に対する助成を実施し、これまでに 2 園 190 区画が開園し、多くの区民が利用しています。このほかにも、地元野菜を利用した学校給食や即売会など地産地消を促す取り組みも行ってきました。

アグリフェスタは、都市農業の振興と農地保全への理解を深めるため平成 24 年度から、杉並区と世田谷区、ＪＡ東京中央の三者による協働事業として開催しているもので、今年で 7 回目となります。実際に農業者が都市で農業を行う上での苦労や工夫を自らの声で伝えるとともに、実際に採れたての野菜を味わってもらう即売会も行われました。

午後 1 時 30 分、区役所ロビーでは田中良杉並区長や保坂展人世田谷区長をはじめＪＡ東京中央の城田恒良組合長、農業者代表も参加しトークセッションが行われ、活発な意見交換が行われました。杉並区内で農業に従事する井口幹英さんが、「学校給食では地元野菜デーが実施されていますので、ここうした機会に我々農業者が子どもたちのところに行って野菜作りなどの訪問授業をやらせてもらっています。子どもたちが、目の前で美味しいといって自分たちの作った野菜を食べてくれることが何よりうれしいです。」と話しました。

【問い合わせ先】産業振興センター：０３－５３４７－９１３６